

「虫すだく」

西をさむ

こほろぎの雨宿りして捕まりぬ 久松久子

おそらく勝手口での出来事でしょう。それにしても余りにもひどくはないですか。家事労働に神経を使い果して滅入っているんじゃないかと心配で覗きにきた。なのに捕まるなんて、思いもしなかったでしょう。それでもコホロギは安心したのでしょうか、虫籠の中で癒しの音楽を奏で始めます。でも待ってください。こんな事に成りはしませんかねえ。

眠れない不協和音の虫の宿 高橋真紀子

これは、宿泊客達のカラオケ大会を詠んでいると思えばよいのです。そして、こういう時には、

こおろぎもいっしょに掃いてしまいけり 村上美和

とすれば旨寝出来ますから。しかし、次の句の様に成らないように気を付けましょう。

酔うてこほろぎと寝てみたよ 種田山頭火

まあこれは、山頭火だからこそ出来たのです。

今年はめっきり蚊が少なくなった様に思いますが、もし蚊と出合ったならば次の句の如く試してください。

残る蚊に糖尿病の血を恵み 青木輝子

蚊の方としては血糖値の高い血とは夢にも思わなかったでしょう。甘くておいしい血を恵んで頂いて感謝の気持ちで一杯です。しかし、行く末が心配ですね。でも御心配なく。

秋の蚊を退治せぬのも自然保護 伊藤浩睦

人も生き物も何時かは終末を迎えます。お互いに助け合うのが大切ではないでしょうか。

秋の蚊のよろよろと来て人を刺す 正岡子規

子規さんの枕許で何を話し合ったのでしょうか？想像すると何やら切なく成って来ますね。では次は明るく。

どこへでも行きますちちろ合唱団 杉山佳代子

都会では無理かもしれませんが、田舎では何処の家でも来てくれます。しかし、合唱団ほどの音楽性は有りません。それでもモーツァルトの弦楽四重奏曲の様に心を癒してくれます。そうして次の演奏会場へと向います。

道譲るつもりか虫の鳴き止みて 麻生やよい

そうするとこれは、人間を警戒して声を潜めた訳では無い様ですね。超一流の演奏者達が移動しているひと齣かもしれませんね。でも中には、

聞き役の虫もいるはず闇深し 松原小蕾

で、鳴かないのかもしれませんが、「鳴く」を「泣く」にすると一変します。

泣きし過去鈴虫飼ひて泣かぬ今 鈴木真砂女

真砂女さんの一生がこの句の中に凝縮されている様ですね。

黒塗りの昭和史があり鉦叩 矢島渚男

どんな時代であっても黒塗りはやめてもらいたいものです。鉦を叩いてもお経を唱えても誰一人浮かばれません。

みなくなるぞみなくなるぞと残る虫 矢島渚男

少し暗く成って来ましたので、最後は明るく。

すいつちよん暢気がちやがちや早合点 奥坂まや

おわ

り